

# 全国ランキング いい病院

手術数でわかる

全総力を結集した  
信頼のランキングデータ

## 全国 5296病院の 手術数が わかる!

# 2012

がん、心臓病、脳疾患、がん放射線治療、  
人工関節、眼、耳の病気など疾患別に紹介

### 全国トップ3300病院

執刀医、治療医リスト6900人

●特集企画

東日本大震災から1年——  
被災地の医師から五つの提言

### 東北のこれから、 日本のこれから。

- 小川彰医師 (岩手医科大学学長)
- 遠藤涉医師 (気仙沼市立病院院長)
- 飯沼一字医師 (石巻赤十字病院院長)
- 目黒泰一郎医師 (仙台厚生病院理事長)
- 立谷秀清医師 (福島県相馬市長)



本誌は収益の一部を  
日本の対がん活動のために  
寄付します

CLOSEUP

# 膝の痛みから解放された人生を取り戻す 親身な対応と確かな技術で行う人工関節置換術

筋肉を切らない手術や部分人工膝関節などにより、負担の少ない手術を追究する

## 手術への不安を 払拭する取り組み

人工関節置換手術の最終目的は、関節の痛みから解放され、明るく前向きな人生を送ること。手術を受ける人は年々増加しているが、手術への不安・恐怖や誤った情報により、欧米に比べると、その数はまだまだ少ない。



整形外科診療部長 関節センター長 平中 崇文  
ひらなか・たかふみ ●1988年神戸大学医学部卒業。1998年より高槻病院で勤務。2010年関節センター開設。11年イギリスオックスフォード大学留学。医学博士、日本整形外科学会認定整形外科専門医、神戸大学臨床准教授。得意分野は人工膝関節、人工股関節、膝関節鏡手術(十字靭帯手術等)、骨折治療

「膝の痛みを我慢して生活している人が多いのが現状だ。『痛みが苦しむ患者さんを救うためにできることは何か?』を常に考えています」と語るのは高槻病院整形外科診療部長の平中崇文医師。

高槻病院では、平中医師の下で、2010年に関節センターを設け、股関節および膝関節の疾患で悩んでいる人に、手術を含めた丁寧な治療を行っている。重視しているのは、患者が十分に納得して治療を受けられるようにすることだ。「人工関節置換術は一生を左右する手術です。それを決断する大切な話を簡単に済ませる訳にはいきません。可能な限り時間を取り、患者さんのご家族も含めて治療について説明し、質問にも答えています」と、平中医師はいい、患者の決意が固まるまで親身に対応していく。手術の説明には1時間以上かけることも多い。また、人工関節の正しい知識を知ってもらうために、講演活動を数多く行っている。

## 手術の負担軽減への 取り組み

人工関節置換術を受けることを決心した患者に対し、平中医師は、高い技術で精度の高い手術を行っている。その上で、患者の負担をより軽減するための取り組みを行う。

### 筋肉を切らない手術

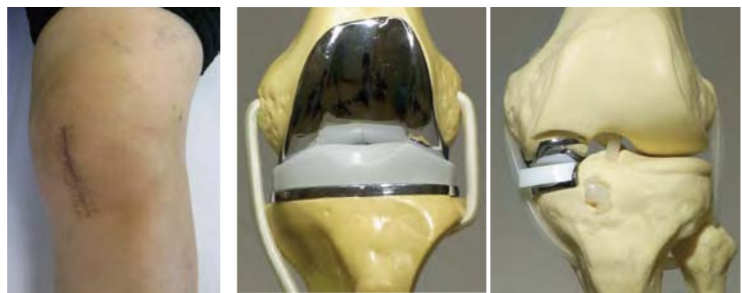
人工関節置換術患者の負担を極力抑えるため、傷口が小さいだけでなく筋肉を傷つけない手法を選択する。難しい手術となるが、10センチ程度の小さな傷口となり、痛みが軽減され、膝もよく曲がり、術後回復も早く入院も短くなるという。

### 部分人工膝関節手術

平中医師は、手術する膝が一定の条件を満たせば、通常の人工関節に比べて患者負担の少ない部分人工関節置換術も選択する。これは関節の悪い部分だけを取り換え、患者自身の関節の



術前、術後の患者も丁寧に診察していく



通常の人工膝関節(左)と、部分人工膝関節(右)。部分人工膝関節では、関節の大部分が温存されるため負担の少ない手術が可能

大部分を温存する手法である。「痛みがより少なくなり、傷も5〜6センチと、より小さくなるため、回復が速まります。また、膝の動きも自然で、よく曲がります。中には正座可能となる人さえいます」と、メリットが多い人工関節だ。

「この手術は将来必ず必要とされる手法。多くの人の治療に役立つはず」と考え、この部分人工関節では世界最先端の施設であるイギリスのオックスフォード大学に留学し、手技を学んできた。「現在では、全国でもトップ

## 両膝同時手術などへの 取り組み

こうした、負担軽減を徹底的に追求した結果として、両膝同時(同日)手術や、本来人工関節をあきらめていた80歳以上の高齢者に対する手術も可能にしている。さらに、膝関節鏡、特に十字靭帯手術の経験も豊富で、手術ナビゲーションシステムも症例に応じて使用している。また、独自の手術器械、手術手技の開発も行い、実用化されている。

その向上心・探究心にあふれる姿勢は、患者からの信頼感や満足度が極めて高い。さらなる安心・満足への取り組み



同院のリハビリテーション室。スタッフは早期機能回復を目指し、研究や研鑽を重ねている

一度は定期診察を行う。さらに「あゆみ会」という、術後患者の同窓会を毎年行っており、毎回100人近くの出席があるという。手術を迷っている患者が出席し先輩の体験談を聞くことも多い。



開業区とも連携し、地域に密着した医療を実践する高槻病院



人工関節置換術の様子。この日平中医師は両膝同時に部分人工関節置換術を行っていた



手術後の患者と会話する平中医師

「患者さんの中には、日常生活動作が十分できるまで入院リハビリを続けたい方もおられます。そうした方には併設する愛仁会リハビリテーション病院で納得いくまで入院リハビリをしていただきます」と、あくまで患者個々の生活や要望にあわせることを大切にしている。

「取材/鈴木健太」